

元・松本山雅FC
高崎 寛之氏

たかき・ひろゆき／1986年茨城県結城郡八千代町出身。2016年から20年まで松本山雅FCに在籍し、ストライカーとしてチームをけん引。移籍直後の16年および17年にはチーム内得点王となり、18年にはクラブのJ1昇格に大きく貢献。その後、FC岐阜、ベトナムのサイゴンFCに在籍し、22年に引退。現在は山形村で農業に取り組み傍ら、出身地である茨城県八千代町の観光大使としても活躍。

こくしょうこくさん
国消国産

国消国産とは、「私たちの国で消費する食べ物は、できる限りこの国で生産する」という考え方です

おおはし・よしとか／1983年埼玉県浦和市出身。2009年からAC長野パルセイロでミッドフィールダーとして活躍。15年現役引退後はスクールコーチ、スタッフとしてクラブに尽力した後、22年から農業の道へ。現在は長野県篠ノ井高等学校サッカー部の外部コーチもつとめ、次世代育成にも力を注ぐ。

元・AC長野パルセイロ
大橋 良隆氏

セカンドキャリアとして
農業がアツい?!

僕らが農家になった理由。

—元プロサッカー選手が語り合う、農業という新たな可能性—

求む！日本の食を支える
新しい力！

なぜサッカーという全く異なる世界から、農業というフィールドに飛び込んだのか。現役引退後、農家としての道を歩む元アスリートのお二人に、セカンドキャリアとしての農業の魅力、農業の可能性、今後の展望などを語っていただきました。

なぜ農業に？ 転身のきっかけと決断

大橋 これまで農業とはまったく無縁の人生。きっかけをくれたのは、パルセイロのスポンサーだったJ.Aクラブの長野さんでした。一緒に「パルセイロ農園」を企画運営する中で、徐々に農業に興味を湧いてきました。他県出身の僕には**長野県の野菜や果物のおいしさ**が衝撃的だったんです。よね。こんなにいいものが作れる土地なら自分も生産者側になつてみたいと思うようになって。2022年6月にクラブを辞めて、妻の実家がある長野市若穂で桃農家としてスタートしました。

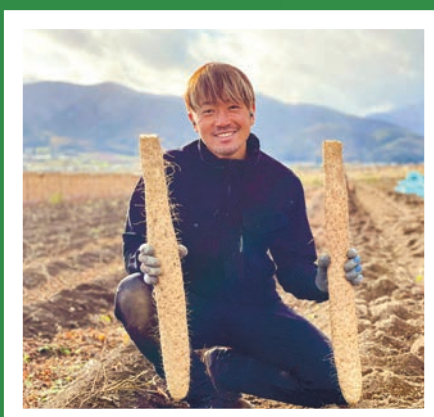


高崎 僕も引退したのは、大橋さんと同じ2022年。でも次のキャリアを決めて辞めたわけじゃないから、次の日から全く違うことがなかったんです(笑)。そんな時、行きつけのイタリアンレストランで出してもらったのが、いま自分が栽培している自ヒラタケ(信州ブルロッド)。ありだのおいしさに感動したんです。すぐオーナーから「そのキノコ、唯一生産している人が休職しちゃって、もう手に入らないかも」と聞き、翌日すぐにその生産者さんへ電話し、次の日には山形村にある工場へ、会ったその場で「僕に継がせてください」とお願いし、工場ごと譲ってもらって、その日から、いきなり自ヒラタケ農家になりました。

大橋 えっ? 急展開すぎない? **高崎** 当時本当にやるのがなかったのと、あまりにおいしかったのでこれはもう自分が残さないといけない」と即断即決でしたね。自ヒラタケだけでは収入が不安定になりがちなので、今は山形村の特産であるスイカと長芋も栽培しています。

大橋 始めたのはいいけれど、当然最初は分からないことだらけ。義父に聞いたり、立派な畑を見かけたら、そこで作業されている農家さんに飛び込みで話しかけたり。共選所ではレベルの高い桃を持つてくる農家さんを質問攻めしたこともありましたが、でもみなさん嫌な顔せず、知識を惜しみなく分けてくれるんです。地域の人たちが自分を育ててくれました。

それにすぐ身近に、栽培ノウハウ含め資材や肥料など農業に関することなら何でも相談できる「J.Aさん」という組織があることも心強かったです。



高崎 J.Aさんでいうと、何と言っても**「共選」という販売のネットワークがあるのは強い**ですね。自ヒラタケは取り扱いがないので販路開拓けど、とても大変。スイカと長芋は半分以上J.Aさんに輸出しています。

大橋 それはある！作物は「待つたなし」だからね。「旬」を逃すわけにはいかないから収穫が最優先。収穫期は販売まで、とても手が回らないので、そういった場面で共選があるのは本当ありがたい。



高崎 僕はJ.A青年部にも参加していますが、農家同士の交流はもちろん、地元のお祭りやイベントに参加したりして、地域の方とも接点を持っているのがうれしいですね。山形村は松本山雅のサポーターさんも多いので、地域ぐるみで見守ってもらっている感じがします。

サッカーと農業の 共通点

高崎 サッカーも農業も正直、体力勝負な部分はあります。 **大橋** それは間違いないね。 **高崎** あとは「日々の積み重ねが全て」というのも一緒ですね。選手時代も基本は、しっかりと練習してケアして食べて寝てという日々のサイクルを、いかに手を抜かずやるか、結果が決まるので。 **大橋** アスリートも農業も1年1年が勝負。いいプレーをすれば観客の皆さんが喜んでくれるし、年俵が上がるのと同じで、手をかけて良いのができれば、消費者の「おいしい!」という声が返ってくる。**努力は報われるし、やり方次第はしっかりと稼げる**。アスリートの気質には合っているんじゃないかな。

若い人が農業に 「戻って」きている

高崎 そういえば最近、地域に若い人が戻ってきているのを感じませんか? **大橋** 分かる！最初の頃は共選所に行っても年配の方が多かったけど、近頃は若い人を見かけるようになってきた。 **高崎** 周りを見ても、一度は県外に出た人が実家の農業を継ぐためにUターンしてくるケースが増えています。やり方次第でちゃんと食べていく人が増えてきたのかも。それに山形村は大規模にやっている農家さんが多くて、お城みたいな大きい家に住んでいるんですよ(笑)。それを目の当たりにしているので**農業には「希望」しかない**です。いつか面積も売上も地域ナンバー1の農家になつてやうと燃えています。

大橋 1番を目指すのはアスリートのさかだね(笑)。これまで農業に「きつ」が「端っからない」イメージがあったけど、それは**固定観念に過ぎなかった**って今では思う。よく「農家って大変でしょう?」って言われるけれど、自分はあまりそう思わない。確かに最近の夏の暑さま体にこたえるけれど、その分、自然と規則正しい生活になるから健康だだし、何より、桃の木一本一本とじっくり向き合っていると、不思議な心が落ち着いて癒やれるんだよね。むしろ心身ともに元気になった!



高崎 僕は始めたからには、もう**「やりきれない」**に感じて(笑)。「きつ」「大変」はあるけど、自分がつくったものを食べて「おいしい」と喜んでくれる人がいてくれるのは、やっぱり一番のやりがいになりますよね。

広がる、農業の可能性 今後の展望は—

大橋 パルセイロ時代、県外から来た選手に長野の印象を聞くところ、まず「人があたたかい」次に「野菜と果物がいっぱい」ってみんな言うんですね。長野県の人にはこれが当たり前のものかもしれないけど、県外の親せきや友人に長野県産の農産物を送ると驚くほど喜ばれる。だから今後は産地としての長野県の魅力を、長野県の農作物のおいしさをどんどん発信していきたい。長野県民は奥ゆかしい方が多いから(笑)。僕が率先してPRできればいいな、自分だけでなく地域全体のブランド力をあげて、みんなが潤うようにしていくのが地域への恩返しにも思う。

高崎 僕は自分が結構 ambit なんです。まず自分が結果を出して**セカンドキャリアとして農業を志す人のロールモデル**になりたい。農業の未来が明るいことを身をもって証明したいです。元アスリートに限らず、自分の背中を追いかけられる人が、これから増えてくれればうれしい。

大橋 「衣食住」という言葉がある通り、食は人間が生きていくうえで絶対に欠かせないもの。特に**食の値段や価値が見直されている今、これが農業の可能性はさらに広がっていく**と思うよ。当然、始めるには事前の準備やリサーチは絶対に必要。そもそも何をつくりたいのか、農閑期の収入はどうするか、実際に農家さんの話を聞いた上で「チャレンジしたい」という意欲がある人には、農業はぜひおすすめ。可能性にあふれた業界であることに間違いないです。 **高崎** それはもう間違いないです。やり方次第、自分が積み重ねたものの次第で、どこまでも高みを目指せるのがこの仕事の醍醐味。だから思う。これからの日本の農業を担う新しい人、若い力が求められる今だからこそ、どんどん飛び込んでほしいですね!



農業 やろうぜ!



信州産もっとうし党とは?

「国消国産」の考え方を楽しく身近に広め、長野県産の農畜産物ファンを増やすための応援団として結成しました。参加資格は「長野県農畜産物を『推す』(好きになって、応援すること)」であり、政治政党ではありません。国消国産の理念は地域で生産したものを地域で消費する、地産地消の積み重ねによって実現されます。長野県内で農畜産物の生産・消費を盛り上げ、ここ信州から日本の食に活気をもたらすことを目指します。JA長野県では今後、藤森慎吾さんを党首として長野県農畜産物「推し」人口を増やし、県内の農と食を盛り上げる取り組みを実施していきます。

信州産もっとうし党 党首 藤森慎吾さん



JA長野県では 買って! 食べて! 働いて! 農家さんを応援するキャンペーンを実施中です!

JA直売所キャンペーン2025 開催中~2025年11/30(日)
JA直売所を2回以上訪れて全国の美味を当てよう! 直売所で信州産のおいしい農畜産物を買ってスタンプラリーに参加♪ [詳細はこちら](#)



dayworkキャンペーン 開催中~2025年11/30(日)
期間中に5回以上dayworkを利用して長野県産農畜産物が当たるチャンス! 働いて応援しよう! [詳細はこちら](#)



アンケート
こちらの紙面に関するアンケートを実施中。抽選でまごころ商品券が当たる! [アンケートはこちら](#)



お問い合わせ先: JA長野中央会 組織支援部 〒380-0826 長野市北石堂町1177-3 TEL.026-236-2030